

東淀川区の都市景観資源紹介



東淀川区の都市景観資源

大阪市では、東淀川区の都市景観資源の発掘のため、「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成27年3月20日に23件を都市景観資源に登録しました。

1. 安威川と番田水路に挟まれた散歩道



安威川



◆所在地

東淀川区^{いたかの}井高野1丁目、3丁目、4丁目

◆概要

安威川河川敷は、「安威川水と緑の回廊計画」の一環として、公園や遊歩道などが連続的に整備されており、潤いのある水辺空間として散策を楽しんだり環境美化活動に参加するなど地域の方々に親しまれている。



番田水路

2. 上新庄の古い趣のある家並み



信覚寺



◆所在地

東淀川区上新庄2丁目13番15号、20番15号、11番24号、13番25号

◆概要

上新庄2丁目の阪急上新庄駅に隣接する一帯には、信覚寺や春日神社の社寺とともに、蔵などの木造建造物が点在しており、古い趣のある家並みが見られる。

信覚寺は文禄年間（1592～95年）創建と考えられる。春日神社はかつて榊神社と尊称し、天正6年（1578年）奈良春日神社の御分霊を勧請遷祀して春日神社と改称した。本殿は貞享2年（1685年）建立で、境内には樹木が茂り、特に本社裏の楠は樹齢400年以上で、市の保存樹に指定されている。

また、植原邸の長屋門や蔵、外構の巨大な灯籠、また井上邸の明治から大正時代に建築された門蔵など、歴史を感じさせる木造建築物が残っている。



春日神社



植原邸



井上邸

3. ながらばし 長柄橋



◆所在地

東淀川区柴島1丁目
～北区天神橋8丁目

◆概要

古くから広くその名が知られる長柄橋ではあるが、橋の所在地については定かでない。長柄橋の名が復活するのは、明治42年(1909年)、新淀川の開削にもなって架けられた鉄製のポニートラス橋である。この橋は明治7年(1874年)に開通した東海道本線のトラスが転用されたものである。その後、昭和11年(1936年)に架け替えられた橋は、第二次大戦末期に爆撃を受けて橋桁が損傷し、橋の下に避難していた人々に多くの犠牲者がでた。現在の長柄橋は、昭和58年(1983年)に完成したもので、中央部の橋はニールセンローゼ桁というアーチ形の橋が採用されている。近代的なアーチに千年の時の流れを映している。夜間にはライトアップが実施されており、広大な淀川の風景とマッチしている。

4. 淀川河川敷(東淀川区)



◆所在地

東淀川区柴島1丁目～南江口3丁目

◆概要

淀川は、ワンドや川べりに群生するヨシ原など変化のある自然環境に恵まれ、素晴らしい景観をつくっている。河川敷には、自然とふれあひながら、スポーツや遊びが楽しめる場所として、芝生広場やテニスコート、野球場など、河川公園が整備され、多くの人たちに親しまれている。

また、橋をはじめとする土木構造物、中でも柴島1丁目の長柄橋の近くの淀川大堰は、淀川の大事な景観の一部となっている。

5. くにしまじょうすいじょう 柴島浄水場



◆所在地

東淀川区柴島1丁目3番、8番、東淡路2丁目1番

◆概要

通水開始が大正3年(1914年)2月で、1日の標準給水能力は、1,180,000 m³ で、市内中部、北部、西北部に給水している。敷地面積約462,000 m² のなかには、配水地やポンプ場、高度浄水処理棟などの設備が配置されている。

阪急京都線の崇禅寺駅から淡路駅間東側線路沿いの460mには、樹齢50年以上のソメイヨシノを含め、合計160本の桜が植えられており、春には桜並木の通り抜けを開催している。

また、崇禅寺駅の北側、柴島1丁目8番の東角には、昭和20年(1945年)6月の米軍機による空襲により浄水場の壁面に残された弾痕の一部が道路沿いに保存・展示されている。



6. 松山神社



◆所在地

東淀川区小松 4 丁目 15 番 38 号

◆概要

延喜元年（901 年）、菅原道真が太宰府に流罪になる途中この地に立ち寄り、数千株の小松の茂る景観に感動し、小松の詩を吟じ直筆の御真像を与えた。道真亡き後、村民たちが社祠を構えてお祀りしたのが松山神社の起こりだといわれている。明治 42 年（1909 年）に大隅神社に合祀されるが、昭和 19 年（1944 年）に地元の復帰運動が実り神社を再建し、小松の氏神として現在に至る。

門前となる参道が道路を隔てて南側の公園内に残されており、地域の歴史を今に伝えている。

7. 緑風橋

りよくふうばし



◆所在地

東淀川区下新庄 4 丁目～吹田市川岸町

◆概要

東淀川区下新庄地区は、木造住宅の密集地であり、広域避難場所に指定された淀川右岸河川敷まで 2km 以上離れている、いわゆる避難困難地区になっていた。しかし、神崎川を挟んだ対岸には吹田市の広域避難場所である中の島公園があり、両地区を連絡する橋があれば、下新庄地区の住民が短時間に同公園に

避難できる。一方、吹田市側の住民にとっても、阪急千里線下新庄駅利用の便が図れるようになる。このように、本橋は両市住民にとって大きなメリットがあり、国土庁の防災緑地網整備促進事業の補助（1 億円）も受けて、両市協力のかたちで実施された。本橋は、居住区域と広域避難場所や地区防災広場を結んでネットワーク化する、防災緑地整備の一環にもなっており、快適な環境形成にかかわる側面も考慮に入れて設計されている。周辺の開けたロケーションのなかに、デザイン化された照明柱や高欄が設けられ、夜間は阪急千里線の電車からライトアップされた橋の風景が楽しめる。

8. 瑞光寺と雪鯨橋

すいこうじ せつげいきょう



◆所在地

東淀川区瑞光 2 丁目 2 番 2 号

◆概要

瑞光寺は、聖徳太子の創建と伝えられ、現在の大阪経済大学敷地にあった。三寶寺の全盛時代に堂宇のひとつに属した臨済宗の禅寺であったが、建武年間（1334～1336 年）の頃、火災に遭い建物が焼失した。その後、寛永 20 年（1643 年）に伊予の国の天然という臨済宗の僧がこの地に入り、観世音菩薩を本尊に白

隠禅師を坐主に迎え、指月寺と名づけて復興した。しかし、昭和 20 年（1945 年）6 月の大空襲で本尊の十一面観音を除いて、豪華な堂塔伽藍から寺宝一切を失った。その後、昭和 59 年（1984 年）に再建され現在に至っている。

瑞光寺の境内にある「弘済池」には、全国にもここだけと思われる、鯨の骨でできた「雪鯨橋」が架かっている。4 世住職潭住が、宝暦 6 年（1756 年）に南紀を行脚しているとき、太地浦（現在の和歌山県太地町）の漁師に不漁であったことから豊漁の祈念を請われた。潭住は「殺生は五戒の一つ」として断ったが、ついに祈願に応じた。鯨がたくさん捕れたお礼として、30 両と鯨骨 18 本が贈られたが、潭住は鯨を供養し、すべての生き物を大切にするという祈りを込めて、この橋が作られたといわれている。現在の橋は、6 代目の橋で、平成 18 年（2006 年）に架け替えられたものである。

